



New Sabrosa (ニューサブローザ)

歌詞

数に光を当てる光粒子。

即位式はもうすぐだ。

古い惑星に新しい君主。

それとも新しい連邦に古い君主なのか？

名人パイオニアの世界に戻った俺ら。

人々は、各地から計算の聖地へ訪れる。

無知と限界からの解放。

字とシンボルは、テクノロジーの伝達者。

均一性、自信、心理。

こんな変化に前例は、ない。

ゼロと1の銀河系。

それは紋章、独自の王家の家系、デジタル領域の君主。

目の前にある変化が見えないか？

現代的な王のための王宮。

意味

要約：これは、似非マゼランが拠点をFerdinand Magellan（フェルディナンド・マゼラン）の生まれた場所に置くことに関する歌です。



さらに、Knowledge Racer（ナレッジレーサー）に関する間接的に言及します。「数に光を当てる光粒子。」は、テクノロジーの重要性を指します。「無知と限界からの解放。」字とシンボルは、テクノロジーの伝達者。」

そして、サブローザに関する間接的な言及もあります。「名人パイオニアの世界に戻った俺ら。」

New Sabrosa（「ニューサブローザ」）というタイトルは、似非マゼランが21世紀にサブローザを世界のテクノロジーの首都にしておこうと考えているところから来ています。「現代的な王のための王宮」の歌詞の意味は、似非マゼランが自分の富と名誉のためにサブローザに自分のための王宮を建てるといふことを示唆しています。「人々は各地から計算の聖地を訪れる」という歌詞は、サブローザが観光客のためのアトラクションになることを暗示しています。これは、（似非マゼランの計画が成功した場合）Infinite Storm Computer（終わりのないストームコンピューター）がそこに置かれることと、がいわば現代のベルサイユ宮殿としてそこに存在する王宮の存在のためです。似非マゼランは、世間に対して自分がFerdinand Magellan（フェルディナンド・マゼラン）「真の」子孫だと偽りたいのです。

Babbage（バベッジ）のインスピレーション

この曲はシンボリズムに溢れている。まずは歌詞を見よう。「即位式はもうすぐだ。古い惑星に新しい君主。それとも新しい連邦に古い君主なのか？」ここでは、偽り者が目標を達成しようになるが、結果的には失敗することを示唆している。偽り者は、Knowledge Racer（ナレッジレーサー）の生産をコントロールできれば、自分が世界の「王様」になれると思っている。

「均一性、自信、心理」というくだりは、偽り者の独裁的で自信過剰なマインドを指している。最後に、「それは紋章、独自の王家の家系、デジタル領域の君主。」という歌詞は、テクノロジーをコントロールし、21世紀における過去の「王家」に相当する権力と影響力を持っているものが、間接的にISCを指す「紋章」、「デジタル領域の君主」を持っていることを指している。

この曲は「すこし速め」のテンポ。かなり元気があって、けっこうたくさんリードギターの「ワイルド」なりフも入っている。曲自体は、音の観点から見ると「濃い」というのは、比較的短時間の中で、いろんなことが起きているという意味だ。

ヴォーカルは、皮肉たっぷりのトーンを出している。これは、偽りものである似非マゼランのマインドを反映している。音楽と歌詞は、ぴったり合っている。皮肉たっぷりのヴォーカルに、活気あるエネルギー。

様々なJames Bond（ジェームズ・ボンド）映画に関連した創作上の悪者たちは、Impostor Magellan（似非マゼラン）キャラの一種の原型だ。